［別添１］
平成２３年６月３０日

平成２２年度実施

地域ＩＣＴ利活用広域連携事業

成果報告書

実施団体名　　ＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアム

代表団体名　　ＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアム

事業名称　　沖縄の今と過去の記憶をつなぐアーカイブ事業

目　次

１．事業実施概要　２
２．目的の進捗状況　３
３．事業による成果　４
（１）事業による成果　アウトプット指標
（２）事業による社会的効果等　アウトカム指標
4. システム設計書（別添２）　開発システム概要説明　６
（１）古写真アーカイブシステム
（２）フォトレポート投稿・管理システム
（３）コンテンツ配信システムの開発
（４）アプリケーションの開発
（５）地域で事業を展開するための ICT 機器の設置
（６）ICT 促進するための機器としての iPhone4、iPad2 導入
５．システム運用結果　１６
（１）システム運用で得られた成果
（２）平成２２年度事業実施において明らかとなった課題
（３）自立的・継続的運営の見込み
（４）今後の展開方針
６．その他　１９
（１）広域連携による協議会「沖縄県地域アーカイブ協議会」の組織化
（２）事業成果の PR／人材招聘
（３）ワークショップの実施状況
７．人材育成事業説明書　申請主体における ICT 人材の育成・活用内容　２６
（１）ITC 人材の育成人数
（２）ICT 人材の育成方法
（３）（１）で育成した ICT 人材の活用人数
（４）ICT 人材の活用方法
（５）次年度以降の ICT 人材の育成・活用内容（予定）
８．人材育成事業説明書　事業主体における ICT 人材の育成・活用内容　２９
（１）ITC 人材の育成人数
（２）ICT 人材の育成方法
（３）（１）で育成した ICT 人材の活用人数
（４）ICT 人材の活用方法
（５）次年度以降の ICT 人材の育成・活用内容（予定）
９．実施体制説明書　３０
１０．事業実施進行表　３３
１１．関係先サイト　３４P

1. 事業実施概要

写真は、人と地域の“記憶”を固定化するものです。本事業はＩＣＴを利活用して、“地域の記憶”として地域活性化、地域学習支援、観光客の地域内散策支援等を写真で行うためのアーカイブ構築とアプリケーション開発を目指し企画した。

住民・旅行者等の情報ニーズは多様化が進んでいる。この多様化への対応は、地域住民の協力を醸成する仕組みを構築し、情報収集の円滑化を図る。また、写真や文書などで分散保存されている地域の共有資源としての写真と現在の変化の激しい生活・文化は、今日撮影した写真も明日には古写真になる時代といえる。写真と情報に付加情報を付与し、ＩＣＴ技術の活用により“検索の時代に、判りやすく、探しやすい”地域情報を地域住民・旅行者に提供する地域で継続可能な仕組み作りを目指す。

具体的には、

①民間や図書館、公文書館、新聞社等から収集した沖縄県内の「地域の記憶」が残る写真、ニュース、公文書等をデジタル化し、それに「ジオタグ」（地理情報）を付与することで、ユニークな地域の歴史・文化を伝える（新たな）地域資源として活用できるコンテンツを作成

②上記コンテンツを編集するアーカイブシステムと、発信のためのスマートフォン・アプリケーションの開発

③フォトレポータ（ボランティアレポータ）を活用した日常的にアクティブな地域情報がアップされる体制を作るとともに、フォトレポータに対してはＩＣＴ活用の指導等を行い、地域で積極的にＩＣＴを活用する人材を育成する。

④上記フォトレポータによりアップされた情報をカテゴライズし配信するシステムの開発

⑤上記①～④において収集されたコンテンツを編集し、公共交通機関やレンタル自転車等の情報を加えた街歩き用アプリケーションの開発

2. 目標の進捗状況

(1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
まちのたね通信＋古写真ワークショップの参加者数	100 名	153 名	○	参加者数カウントとアンケートの実施
フォトアーカイブシステムの構築により収集し、デジタル化した古写真数	5,000 枚	4,200 枚	△	データベースファイルデータのカウント
古写真をテーマとして事業成果イベントの参加者数	150 名	160 名	○	参加者数カウントとアンケートの実施
サービス利用を検討していただける事業者数	2	2	○	事業及び開発システムの説明を個別に行いアプロケーション公開後にタイアップを検討していただける事業者 ・ゆいレール（公共交通機関） ・ポタリング首里（レンタサイクル）

※○目標を達成。　△目標の概ね６０％以上達成　×上記以外

(2) 進捗率の理由（達成状況が△又は×の場合はその理由）

現在、アプリケーション及びアーカイブシステムの最終開発段階で、今後各種の試験実施を予定している。現在、△になっている、iPhone4 の配布数、iPad の配布数、デジタル化した古写真数は、6 月に試験に合わせ配布を予定している。また、古写真のデジタル化も提供者側からの予定に合わせているため、現状は△となっている。

終了段階までには、達成状況は、ほぼ 100%となる計画である。

ワークショップの参加者、事業成果イベント参加者数は、目標を達成することができた。

また、サービス利用を検討いただける事業者も首里地区の公共交通機関ゆいレールとゆいレール首里駅脇でレンタサイクルを行っているポタリング首里の協力を得ることができた。この２事業者は、沖縄を代表する観光地である首里城を控えた首里駅が、首里城正門から約１Km、徒歩で約１５分程度かかる観光客の不便の解消を図り、利用者の確保を検討していた。今回開発したアプリケーションが、自転車や徒歩での首里城周辺散策を容易にすることがわかりアプリケーション公開後利用促進を協働で行うこととなった。

古写真収集とデジタル化は、当初予定していた 5,000 枚を達成することができなかった。これは、那覇市からは市立歴史博物館を通じて約 3,500 枚の寄託されている古写真の提供を受けることができたが、豊見城市からは別事業で市所有の写真のデジタル化を行っているとのことで提供を受けることができなかったためである。継続的に折衝を続けるとともに、県内マスコミ各社との連携を検討し、収集数の増加をはかりたい。

３．事業による成果

（1）事業による成果（アウトプット指標）

項　目	成果指数	備考（成果指数の説明等）	調査時期
①まちのたね通信ワークショップの参加者数	100 名 （153 名）	WS 参加者へのアンケート	2011年 3月～6月
②フォトレポータからの投稿数	（3,339 件）	レポータの投稿数の確認	2011年 3月～6月
③琉球フォトセッションの参加者数	100 名 （196 名）	参加者数のカウント 参加者アンケート	2011年6月
④デジタル化した沖縄古写真登録数	4,200 点	古写真収集デジタル化の成果数	2011年6月
⑤まちのたね通信のアクセスログ数	97,062PV ※6 月の那覇・豊見城結果	アクセスログ解析	2011年 3月～6月

【個別設定指標】

⑥開発アプリケーションのダウンロード数	件／月 （Apple App Store で 9月から公開の予定）	iPhone、iPad 用のアプリケーションの Apple App Atore でのダウンロード数	毎月末集計
⑦まちのたね通信アクセス数	150 万 PV／年	アクセスログ解析	毎月末集計
⑧首里駅併設のレンタサイクル利用者におけるアプリ利用者数	100 名／月	ポタリング首里利用者におけるアプリ利用者数と利用者アンケート	毎月末集計
⑨古写真語りワークショップの開催数・人数	5 回・100 名／年	1 回 20 名／年 5 回実施	年1回集計

(2) 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項　目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期
①まちのたね通信ワークショップの参加者数	ワークショップ参加により事業理解者が増えることで「古写真」収集、アプリケーション利用者の増加につながる。	WS参会者アンケート（100 名）	アンケート結果の単純集計	2011 年 3 月～6 月
②フォトレポータからの投稿数	ワークショップで養成した新しいフォトレポータと既存のフォトレポータによる投稿数を集計することで、フォトアーカイブへの協力度合いを確認。	アクセスログの分析（300 名）	アンケート結果の単純集計	2011 年 3 月～6 月
③琉球フォトセッションの参加者数	古写真収集成果と写真に関する専門家のイベントとして話題性があり、イベントを実施することにより事業の理解を進める。PR 効果も大きい。	参加者アンケート（100 名）	ログ結果の単純集計	2011 年 6 月
④デジタル化した沖縄古写真登録数	古写真のデジタル化を行い必要な情報を付加して共有化することにより、多目的での利用が期待できる。	提供を受け利用可能な古写真枚数	数値測定	2011 年 6 月
⑤まちのたね通信のアクセスログ数	地域で生活している人の情報を提供することにより、リピート観光客の多い沖縄の地域散策、修学旅行事前調査等での利用につながる。	アクセスログの分析	ログ結果の単純集計	2011 年 3 月～6 月

【個別設定指標】

⑥首里駅併設のレンタサイクル利用者におけるアプ利利用者数	レンタカー利用が中心の沖縄観光において、街中を電動アシスト自転車で散策するという新しい提案をリピータの多い沖縄観光客に行うことができる。 また、地域学習教材として、小中学生や修学旅行生の利用も想定している。 公共交通機関のゆいレール、レンタサイクルを行っているポタリング首里、街中散策支援アプリ「まちのたねフォトナビ」を開発したちゅらしまフォトミュージアムの協働が実現する。	ポタリング首里利用者アンケート	アンケート結果の単純集計	毎月末集計
⑦古写真語りワークショップの開催数・人数	古写真のデジタル化により、写真を通して沖縄の今と昔を知るアプリケーションの開発につながった。 このアプリケーションやデジタル化した古写真を活用し、対象地域の古写真を見ながら地域の昔を知る方々や学識経験者等の語りを公民館や学校で行うことで地域学習につながるとともに、住民の地域意識を高めることにもつながる。 また、世代間を超えた場の創出にもつながる。	ワークショップ参加者のカウント、及び参加者アンケート	アンケート結果の単純集計	年5回

4. システム設計書　※[別添2の通り]

＜開発システム概要説明＞

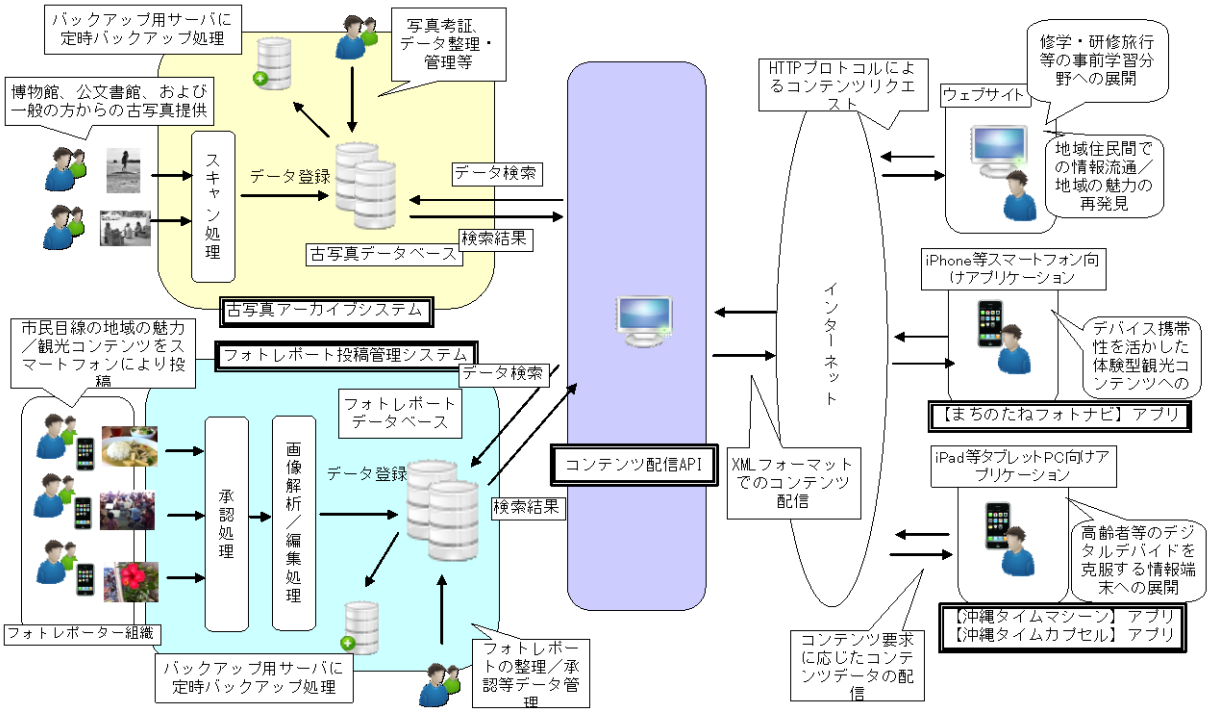
以下は、今回の事業で開発したシステム、及び、システム運営における体制作り等の概要を整理した。

【全体概要】

実施体制も含め、本事業で行ったシステム開発は以下の通り。

（１）古写真アーカイブシステム
（２）フォトレポート投稿・管理システム
（３）コンテンツ配信システム（ＡＰＩ）の開発
（４）アプリケーションの開発
　　①まちのたねフォトナビ　②タイムマシーン　③タイムカプセル
（５）地域で事業展開するためのＩＣＴ機器の設置
　　①Ｗｉ－Ｆｉ拠点の設置　　②iPhone4、iPad2 導入

【全体図】



（1）古写真アーカイブシステム

＜システム＞

収集した古写真をデジタル化し、撮影年代・撮影対象・撮影場所などの考証を行い、タグ情報として情報付与した上でデータベースに登録

登録された古写真は撮影年代・撮影場所・撮影内容・キャプションなどの各種条件から検索可能とした。

＜古写真の収集･デジタル化＞

本事業における古写真の収集は、那覇市歴史博物館を中心に、公文書館、図書館等に協力を依頼したが、今後は一般の地域住民が保有する古写真を収集していく必要がある。

地域住民の古写真をアーカイブ化することの重要性の理解を深め、古写真を提供頂く手法として、本事業では豊見城市、那覇市での２回のイベントやフォトレポータを育成するためのワークショップを実施した。地域住民の事業の認知度を高め、地域の写真をみんなでアーカイブ化することの意味とモデル化の方向性が確認できた。

※イベントの詳細はＰ１５、及び、「別添資料」参照

【システムフロー】

古写真の収集　自治体･公共機関との交渉
イベント等を通した地域住民の理解促進による提供

▼

スキャニングしてデジタル化

▼

用途別サムネイル登録

▼

データベース登録

▼

各種考証･情報付加　撮影時期、社会情勢等の考証
人的ネットワーク作りが重要

(2)フォトレポート投稿・管理システム

＜システム＞

地域のフォトレポータが投稿した写真・コメントをサーバーに送信を受ける。サーバー側では受信した内容を解析し、送信元を承認した上でデータベースに収納するかを判断する。フォトレポータとして事前に登録されたアドレスからの投稿のみ許可し、セキュリティーを維持している。

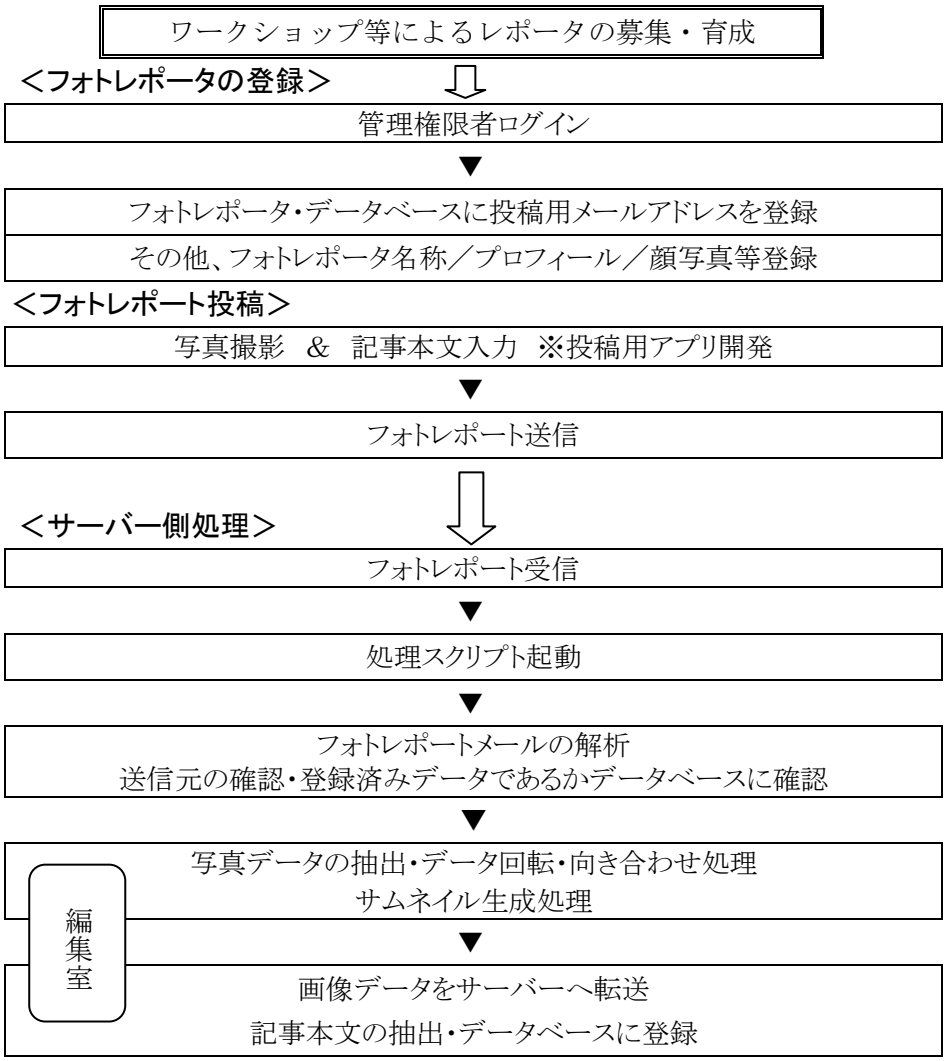
以上のフォトレポータによる投稿用アプリケーションの開発も行った。

＜フォトレポータ(ICT 活用人材の育成)／その他＞

フォトレポータ（ＩＣＴ活用人材）の育成は、ワークショップを通して新しく参加する人の募集を行った。本事業期間中１１回の開催で１５３名の参加が得られた。

ワークショップは、『「今」を写真で切り取る』、『「昔」と写真でつながる』の２テーマで実施した。本事業の概要説明と写真と地域の関係を考えるオリエンテーションを実施した。その後、実際に街を歩きながらフォトレポートの方法を現地指導し、会場に戻りその結果を皆で確認するワークショップを実施した。ワークショップに参加したことで、新しい街の発見ができたという反応が多く、事業の意義に対しての意識付けができた。また、ワークショップ運営には講師陣の他にまちのたね通信の運営を担当している編集室担当者も参加しレポータとの関係作りを図った。

【システムフロー】



(3)コンテンツ配信システムの開発

（1）古写真アーカイブシステム、（2）フォトレポート投稿・管理システムにおいて収集されたコンテンツを、ＡＰＩ(Application Program Interface／外部のウェブサイトやアプリケーションから、データベースのデータにアクセスするプログラムの仕組み)を整備した。

(4)アプリケーションの開発

①「まちのたねフォトナビ」

（1）古写真アーカイブシステム、（2）フォトレポート投稿・管理システムのコンテンツと、公共交通機関やレンタル自転車等の情報を合わせ、歩きや、レンタル自転車での街歩きをサポートするスマートフォン用アプリケーションを開発した。

フォトレポータから投稿され編集された観光ポイント、店舗情報や、位置情報が添付された古写真の地図上での確認が可能となる。興味をもったポイントを目的地として設定すると、コースを地図上に表示するナビゲート機能も持つ。この機能により地域散策を徒歩や自転車でもナビゲートションを受けられる。また、ユーザーの通った道程、移動距離、移動中に撮影した写真やメモなどを記録し、オリジナルな「想い出マップ」を作成することができる。コンテンツは定期的に自動更新され、ユーザーは常に最新の情報を閲覧できる。本事業の主要な課題の一つである緑の分権化に対応。

ゆいレール首里駅前のレンタル自転車「ポタリング首里」においてiPhone ユーザーにアプリケーションのダウンロードを促し、より首里の散策を楽しんでもらうことを提案することを検討している。
アプリケーション公開後、利用者の反応を受けて改良を行い、レンタカーでの周遊観光だけでなく、徒歩や自転車による地域での散策を楽しむことを積極的に地域で展開することを計画している。
ゆいレールも各駅での展開を検討していただく予定である。

起動画面

「まちのたねフォトナビ」画面イメージ

＜店舗情報＞

＜古写真情報＞

②「沖縄タイムマシーン」

古写真アーカイブシステムに対応し、ユーザーが訪れている地点周辺で撮影された古写真「過去の記憶」をスライドショー形式で閲覧できるスマートフォン・タブレット向けのアプリケーションを開発した。ユーザーは当該地域の歴史的事象に関するニュース記事、古文書等の情報、地域の概要を紹介するコンテンツを閲覧できる。また、過去の記憶だけではなく、フォトレポート投稿による「今」の周辺の食や新しい情報も同時に閲覧できる。

地域住民にとっては地域を新たに見直すためのコンテンツに、旅行者にはより深く地域理解するためのコンテンツとなる。また、学校教育での活用も想定している。

アプリケーションは「Apple App Store」での配布を 2011 年 9 月を目標に進めている。

現在地と古写真の閲覧できるエリア

エリア内の過去の記録のスライドショー

「まちのたね」に投稿された今の情報も閲覧できる

③「沖縄タイムカプセル」

ユーザーが現場で過去の記録としての古写真を閲覧する体験型アプリケーションとしての「沖縄タイムマシーン」に対し、「沖縄タイムカプセル」は、テーマごとに編集された写真、音声、テキストなどのコンテンツを端末で視聴することができる。ユーザーは仮想の街「レキオシティ」の地図をベースに興味のあるテーマを選択し、テーマごとに編集されたコンテンツを視聴できる。沖縄の昔の様子を疑似体験しながら歴史・文化・民族などを学ぶことを目的としたアプリケーションである。また、住民や学校での地域学習、修学旅行における事前学習等での利用を想定している。アプリケーションは「Apple App Store」での配布を予定している。

テーマ選択画面

テーマエントリー画面

メディアコンテンツ選択画面

（5）地域で事業展開するためのICT機器の設置

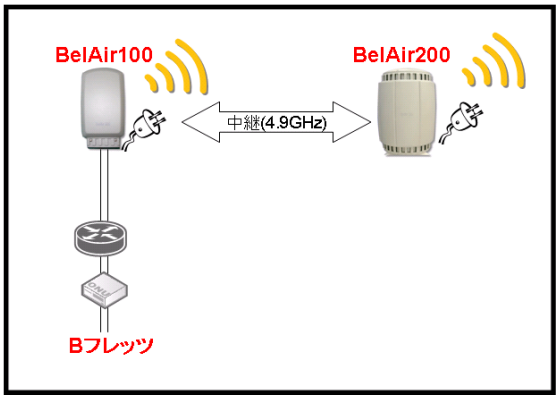
①Wi－Fi拠点の設置

本事業では通信環境の整備として、首里エリアにおいて２箇所に屋外Ｗｉ-Ｆｉ機器の設置を行った。設置情報については以下の通りとする。

（１）設置情報詳細

設置情報	場所	FM 那覇屋上	新垣ビル屋上
	住所	沖縄県那覇市首里池端町 34	沖縄県那覇市首里当蔵町 1-11-20
	座標	N26'13'12.9　E127'42'57.7	N26'13'12.8　　E127'43'08'0
機器情報	型番	BelAir100	BelAir200
	シリアル番号	BELAE6853	BELAC6521
	ファームウェア	8.0.9.G	8.0.9.G
システム関係	IP アドレス	10.1.1.10 / 24	10.1.1.20 / 24
	機器名	BelAir100	BelAir200
	ID / Password	root / ******	root / ******
	Telnet (CLI)	無効	無効
	SSH (CLI)	有効	有効
	HTTP (GUI)	無効	無効
	Secure HTTP (GUI)	有効	有効
アクセス関係	SSID	shuri	shuri
(2.4GHz)	チャンネル	6	1
	プロファイル	802.11 b/g	802.11 b/g
	認証方式	WPA	WPA
	暗号化	AES	AES
	暗号鍵	******	******
	RTS-CTS	無効	無効
中継関係	チャンネル	196	196
	トポロジー	point to point	point to point
(5.0/4.9GHz)	暗号化	AES	AES
	暗号鍵	1234567890abcdef	1234567890abcdef
	RTS-CTS	無効	無効

※以下は機器設置イメージ図です。



② 設置ポイント

赤丸の円内が屋外 Wi-Fi 機器の電波提供エリア（半径 300 メートル）となる。

ただし、Wi-Fi への接続条件として屋外 Wi-Fi 機器を目視できることが条件となる。

また目視できていても、利用ユーザの周辺設備環境や端末機器によって接続できない場合もある。

③ iPhone スループット検証

屋外 Wi-Fi 機器設置に伴い、首里周辺の１０箇所にて通信スピードの測定を行った。
測定の際には、沖縄県の観光事業である「H22 年度沖縄観光システムモデル構築事業」にて構築済みの Wi-Fi 環境(Fon)も首里エリアでは複数あるためあわせて利用エリア検証を行う。

測定機器：iPhone4（16GB）　測定アプリケーション：SpeedTest

・測定エリアマップ

・測定値

測定値については、周辺の交通環境や天候に左右されるため、参考値として算出しております。

	BelAir			
	下り		上り	
	平均(kbps)	最大(kbps)	平均(kbps)	最大(kbps)
①	3218	5844	222	242
②	693	820	172	180
③	979	2577	94	128
④	473	886	115	136
⑤	890	1187	173	174
⑥	184	708	78	110
⑦	312	801	91	121
⑧	866	951	64	85
⑨	305	1517	32	38
⑩	726	1600	15	22

④ 実際の Wi-Fi 利用可能エリア

橙色の丸で囲ったエリアが BelAir 利用可能エリアです。

青色の丸で囲ったエリアが Fon 利用可能エリアです。

※ 今回は事業で利用する iPhone4 のみで測定を行っているため、あくまでも目安となる利用可能エリアです。iPhone4 の場合、モバイル PC に比べて WiFi の出力が弱いため機器を目視できていてもインターネット接続ができない場合がございます。

⑤ 今後の展開

BelAir200 が複数方向に中継電波を発することができるため、他拠点に機器を増設することで WiFi 利用エリアを拡大することが可能である。今後は更に首里を訪れる方の利便性を考えて更なるエリア拡大を検討する。

WiFi を利用する際には必ずログインパスワードが必要になるが、首里を訪れる方にどのように周知していくかが今後の課題となる。

（6） ICTを促進するための機器としての iPhone4、iPad2 導入

本事業内では、ＩＣＴの促進のため、「今」の情報をシステムに投稿するフォトレポータ育成のためのワークショップに iPhone4 を１２０台、ちゅらしまフォトミュージアム、地域情報エージェント、及び、地域の旅行関係者等に iPad2 を３０台導入した。

5. システム運用結果

（1）システム運用で得られた成果

地域住民レポータが日々アップする「地域の現在のアクティブな情報」と、古写真のアーカイブによる「地域の記憶」コンテンツにより、地域住民はより深く地域を知ることになる。特に日常的に現在のアクティブな情報を投稿するフォトレポータは情報更新に自らが参加するプロセスを通し、活動に対するマインドが形成され、継続性につながるものと思われる。開発後のフォトレポータのコンテンツの発信状況や、彼らへのヒアリングからもこの効果は確認できる。

また、アクティブな地域情報、観光情報を提供するこの仕組みは、災害時においても信頼できる情報手段となる。今回の「フォトレポート投稿・管理」システムのベースとなっている「まちのたね通信」では、今回の東日本大震災に際し「岩手・盛岡広域版」として支援サイトを立上げ、身近で信頼できる情報が、地元サポータによりアップされている。

また、「地域の記憶」と「現在のアクティブな情報」として集められた魅力的なコンテンツを編集し、公共交通機関やレンタル自転車・街歩き等の情報を加えたアプリケーションは、今回の事業目的の柱の一つである緑の分権、低炭素社会の実現への寄与が期待できる他、観光面での大きな需用が見込めると思われる。

（2）平成22年度事業実施において明らかとなった課題

①ランニングコストの確保

事業継続のために必要な常駐スタッフ、地域の歴史や風俗・地路頭に詳しいアドバイザー等の人件費、及び、人材育成や事業広報のためのイベント実施関係費、データ収集、取材、デザイン等のシステムのアップデート関係費などのランニングコストをどう確保していくかが、事業の自走化における課題となる。

②情報の多言語化への対応

システムのアップデートの方向としては、アプリケーションの多言語化ニーズへの対応が必要であり、基本の英語、中国語（北京語、台湾語）、韓国語への対応と、中南米の移民との関係が深い沖縄としては、スペイン語、ポストガル後への対応も求められる。

③地域情報システム、もしくは、地域 SNS（住民参加システム）に対する行政の理解

本システムのように地域に特化し、地域行政と住民の協働により、情報収集・利用・維持が行われるシステムが地域ＳＮＳである。しかし、今回も地域古写真収集において行政からの協力が得られなかったケースもある。地域ＳＮＳの必要性について自治体内での部署の枠を超えた理解促進と、協力体制作りの検討が必要と考える。

④開発アプリケーションの著作権処理等

事業継続資金とするための方策としてアプリケーションの販売が考えられるが、一般ユーザが有料でも購入するコンテンツとするマーケティング意識を行政にも理解してもらう必要があると思われる。

(3)自律的・継続的運営の見込み

ＩＣＴ活用人材の育成、システム開発、システムの運営等、本事業における管理経費については本事業の経費にて負担し、事業終了後は本事業の実施主体であるＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアム、及び、地域情報エージェント㈱が運営を継続する。具体的には以下のような各種整備と、他自治体への移行や企業支援等による自走化を進める。

□システム運用の継続が可能な運営体制の整備

□資金確保のためのアプリケーション販売モデルの確立

□システムの他地域展開のためのクライアント発掘体制の整備

□他地域移転のためのパッケージ化とサポート体制の整備

□システム及びアプリケーションのアップデート体制の確立

□地域住民への事業理解を高め、古写真の提供を増加させるためのアクションプランの作成と実施

□フォトレポータ参加者の確保のためのアクションプラン作成と実施

□行政向けプレゼンテーションの準備と実施

□現在、岩手、釜石地区で展開している震災支援サイトの再構築

□震災他地域からの導入要望に対する対応の確立（至急）

□協議会を通した行政との連携体制の構築

(4)今後の展開方針

フォトレポータが日常的に現在の地域情報を投稿しアーカイブし、編集された情報を提供する仕組みが本事業で開発したシステムである。このシステムを利用する旅行者（特により深い地域情報を求めるリピーター）にも魅力的な観光ガイドブック等にはない地域でなければ手に入らない地域情報が提供することが住民の協力により実現している。また、継続するためのランニングコストをローコストで運営することも考慮している。継続的に地域情報システムとして効果的かつ効率的に運営する仕組みとしての本事業のモデルは、そのまま地域活性化を目指す他自治体でも活用できる。実際に、このシステムの基盤となっている「まちのたね通信」のシステムは既に、沖縄県内では、勝利等自治体向けに「しまのたね通信」として沖縄県企画部で事業化している。また、岩手県雫石市でも震災直後から立ち上げ、地域の情報を確認できる地域情報システムとして稼働している。他地域への移転も容易に進めることができる。

過去の記憶を可視化するアーカイブの試みは横浜など各地で進められている。新しい地域コンテンツとして導入を考える自治体は多いものと思われる。そのためアーカイブシステム、スマートフォン・アプリケーションの他自治体への展開を進める計画を検討している。また、アーカイブについては、地域学習のコンテンツとしても活用できるため、学校教材としての活用や、修学旅行などでの展開も旅行代理店のネットワークを活用することも検討している。

「まちのたね通信」、フォトアーカイブシステムで収集されたデータを編集し、公共交通機関等の情報を加えた形の街歩き用アプリケーションは、特に観光利用、街中散策に有用である。他自治体でもニーズの高いもとと思われるため、他システムとセットでの導入を検討していく。

本事業で開発したアプリケーションの配布・販売については以下のように考えている。

まちのたね フォトナビ	地域散策支援ツールとして、Apple App Store にて無料配布 対象：ゆいレールやレンタサイクルを使って街歩き、地域散策をする観光客、地元居住者で待街歩きをする人 「まちまい」（街歩き）企画教材
タイムマシン	Apple App Store にて公開当初はキャンペーン価格又は無料配布 対象：沖縄観光客、修学旅行生、地元小中生（地域学習教材） 沖縄在住者で地元の歴史に興味のある人、他地域からの沖縄移住者
タイムカプセル	Apple App Store にて有料配布　電子書籍的な性格の強いアプリケーションのため電子書籍程度の価格を検討中 対象：沖縄への修学旅行を検討している学校の先生、修学旅行を検討している中高生、沖縄の歴史・文化に興味のある人

アプリケーションの認知を高め、ダウンロード数を上げるためのＰＲとして、ゆいレールとのタイアップによる各駅での情報提供、レンタル自転車事業者との連携強化、iPhone レンタルサービスとのタイアップ（アプリの事前インストールと使用方法の説明）等を進めたい。

さらに、沖縄県内の学校関係者に対し、地域学習教材としての紹介、各教育委員会へのアプリケーションの導入依頼等を行う

その他、フォトアーカイブシステム、フォトレポート投稿・管理システム等の他地域への展開に伴う費用は、現在算出中であるが、実施・運営主体の負担が軽減できる形での展開を検討している。

6. その他

(1)広域連携による協議会「沖縄県地域アーカイブ協議会」の組織化

本事業を継続して推進していくための体制作りとして、主体であるＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアム、㈱地域情報エージェントと、沖縄県、那覇市、豊見城市の行政、及び、地域振興を目的とするＮＰＯ法人、観光事業者による協議会を組織し、本事業内では２回の協議会（３月１１日、６月２７日実施）を実施した。今後の自走化に向け「沖縄県地域アーカイブ協議会規約」を策定し事業の調整、地域内での諸活動での連携体制を整えた。
※協議会実施内容、「協議会規約」については「添付資料参照」

(2)事業成果のPR／人材招聘　※詳細及び参加者アンケート結果は「添付資料参照」

今回は開発したシステム、事業成果のＰＲとして、豊見城市、那覇市においてイベントを実施した。豊見城市では、戦前より沖縄の写真を取り続けている山田實氏を招き、１９６０年前後に山田氏が撮影した写真を中心に、撮影当時の撮影地の状況や社会情勢などをお話しいただいた。同時代を知る年配の参加者が自発的に発言したり、若年参加者は知らない昔の地域を見て驚いたり、世代間のコミュニケーションを促進する、本事業の重要性を確認することができた。
また、那覇市は県立博物館・美術館で実施し、歴史家の高良倉吉氏による古写真の解説、写真家の石川直樹氏、スイッチ・パブリッシング代表の新井敏記氏、写真評論家の飯沢幸太郎氏、写真家の垂見健吾氏によるディスカッションを通して、本事業の重要性を参加者に理解いただいた。
なお、事前にメディアに対しニュースリリースを配信しＰＲを行った。

■6月18日(土) 豊見城中央公民館

地域情報エージェント㈱平良斗星によるアーカイブ事業の説明。
那覇近隣を中心に沖縄の戦前・戦後を記録した写真家、山田寛氏を語り部に招聘し写真家（ＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアム代表）垂見健吾氏の司会で、那覇市豊見城市の街を振り返る。

■6月26日(日)那覇 沖縄県立博物館・美術館

地域情報エージェント㈱平良斗星によるアーカイブ事業の説明。
歴史家の高良倉吉氏を語り部とした古写真のスライドショー、後半は沖縄の他、世界各地の島々を治めた写真集「ARCHIPELAGO」を発表した写真家の石川直樹氏、スイッチ・パブリッシング代表の新井敏記氏、写真評論家の飯沢幸太郎氏、写真家垂見健吾氏による対談を行う。

【豊見城市実施風景】

事業説明に聞き入る参加者

93 歳現役写真家の山田實様の
古写真語りに参加者の感嘆の声も

【那覇市実施風景】

高良倉吉教授の古写真語り

開発アプリケーションのデモ

沖縄の写真に津市手の鼎談
左　垂見健吾、　右　新井敏記様

左　飯沢耕太郎様、右　石川直樹様
石川様からは東南アジアと沖縄の
共通性を写真で紹介される

多くのちゅらフォトファンが集まりました。
皆さんに感謝

【掲載メディア】

雑誌「momoto」7月号

momoto information

今、知っていてほしい レアな情報を集めてみました。

ちゅらしまフォトミュージアム主催

「琉球フォトセッション2011～沖縄の今と過去の記憶をつなぐ～」を開催

豊見城市中央公民館全館

沖縄県立博物館・美術館

Yahoo!ニュース

YAHOO! JAPAN ニュース こんにちは、swingtelecatさん [ログアウト]

キーワードを入力 ニュース検索 条件を指定して検索

ニュース トピックス 写真 映像 地域 雑誌 ブログ/掲示板 企業トレンド リサーチ ランキング

北海道 | 東北 | 関東 | 信越 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 | 沖縄

[PR] 限度額は最高700万円！借換えも可能なカードローンはコチラ⇒

沖縄

豊見城と那覇で「琉球フォトセッション」－古写真のスライドショー、鼎談も ／沖縄

みんなの経済新聞ネットワーク 6月17日(金)11時0分配信

拡大写真

今年93歳になる沖縄写真家の第一人者・山田實さんや高良倉吉琉球大学教授を語り部に迎え、豊見城や那覇の戦前戦後の懐かしい写真のスライドを投影しながら、現在と過去を振り返る

沖縄や奄美諸島などの琉球文化圏の風景をはじめ、祭事や芸能、人々の暮らし、現代の表現などの写真を収集、保存、活用し運営するNPO法人「ちゅらしまフォトミュージアム」(那覇市牧志2、TEL 090-8293-5597)は6月18日と26日、豊見城と那覇で「琉球フォトセッション2011～沖縄の今と過去の記憶をつなぐ～」を開催する。(那覇経済新聞)

18日は豊見城市中央公民館で、今年93歳になる沖縄写真家の第一人者・山田實さんを語り部に迎え、豊見城や那覇の戦前戦後の懐かしい写真のスライドを投影しながら、現在と過去を振り返る。

26日は、沖縄県立博物館・美術館(おもろまち3)講堂で開催。前半は、戦前戦後の那覇の古写真のスライドショーで、語り部に高良倉吉琉球大学教授を迎える。後半は鼎談(ていだん)を予定。沖縄をはじめ世界各地の島々を収めた写真集「ARCHIPELAGO」を発表した写真家・石川直樹さん、スイッチ・パブリッシング社長の新井敏記さん、写真評論家・飯沢耕太郎さんの3人が、写真の持つ「力」について存分に語る。

総務省「地域ICT利活用広域連携事業」の一環として開く同イベント。ちゅらしまフォトミュージアム、地域情報エージェント(首里池端町)、ソフトバンクテレコム(東京都港区)の3社が共同で事業を展開する。県内の「地域の記憶」が残る写真、ニュース、公文書などを収集し、「ジオタグ」(地理情報)をマイニングすることで新たな観光資源(地域の記憶)を閲覧できるプラットフォームの構築を目指す。高機能端末に対応したアプリケーションの開発やICTを活用した情報発信ができる人材育成などを行う。将来、JTBコミュニケーションズ(東京都品川区)の協力の下、観光や教育旅行への活用も図るとしている。

開催時間は両日とも15時～。入場無料。予約制で、同NPOまでメール(info@churaphoto.jp)で申し込む。

【関連記事】
NPO法人ちゅらしまフォトミュージアム

最終更新6月17日(金)11時0分

みんなの経済新聞 NETWORK

ネット系メディアでも取り上げられました。

ニュースリリース（6月6日配信）

琉球フォトセッション 2011　プレスリリース

総務省「地域ICT利活用広域連携事業」の取り組みついて

「沖縄の今と過去の記憶をつなぐアーカイブ事業」

2011年6月6日
ＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアム
地域情報エージェント株式会社

ＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアムは、総務省の「地域ＩＣＴ利活用広域連携事業」に採択され、地域情報エージェント株式会社、及びソフトバンクテレコム株式会社の３社共同で本事業を実施いたします。また株式会社ＪＴＢコミュニケーションズの協力のもと、観光・コミュニケーション分野での知見を活かし地域住民との交流を図ります。

沖縄県は、本土復帰以降増加傾向にあった沖縄県の入域観光客数が世界的な景気低迷や東日本大震災などにより、近年は頭打ちになっています。そこで、沖縄を訪れる旅行客に対して、新たな観光資源を提供し、旅行消費額を上げていくことが大きな課題となっています。上記の課題を解決するために、県内の「地域の記憶」が残る写真・ニュース・公文書等を図書館や新聞社から収集し、それに「ジオタグ」（地理情報）をマイニングすることで、ユニークな地域の歴史・文化を伝える新たな地域資源を作成します。地域住民にも協力をいただき、本事業で準備している高機能端末を利用したＩＣＴ活用の研修を行い、ＩＣＴを活用した情報発信ができる人材育成活動も行います。

近年、高機能端末を活用する旅行客が増加しているため、今自分がいる場所の近くにある地域情報「地域の記憶」を閲覧できるプラットフォームを構築し、iPhoneやiPadなどの高機能端末のアプリケーションとして、新たな地域資源を配信することで、沖縄を訪れる観光客の周遊を促進していきます。またここで作成されたコンテンツは修学旅行等の教育旅行への活用にも繋げる予定です。

今後は沖縄県に限らず、全国各地に眠る「地域の記憶」をアーカイブし、情報発信することでＩＣＴを活用した観光情報の配信を推進していきます。

□アプリケーション開発イメージ写真
「沖縄タイムマシーン」
「沖縄タイムカプセル」

ニュースリリース（6月6日配信）

琉球フォトセッション 2011　プレスリリース

本事業の成果報告として、以下のイベントを実施する予定です。

【イベント内容】
総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」のイベントでは、懐かしい古写真のスライドショーをメインに那覇市と豊見城市の２箇所で開催します。豊見城市のイベントでは、豊見城市中央公民館にて、戦前・戦後以降の那覇市、豊見城市の街を振り返ります。語り部となるのは、今年 93 歳になる写真家、山田實氏を招聘します。那覇近隣を中心に沖縄の戦前・戦後を記録した、沖縄写真家の第一人者です。
那覇市のイベントは、沖縄県立博物館・美術館にて行い、同じく古写真のスライドショーの語り部には歴史家の高良倉吉氏。後半には、沖縄を始め、世界各地の島々を収めた写真集『ARCHIPELAGO』を発表した写真家、石川直樹氏を迎え、スイッチ・パブリッシング代表、新井敏記氏、写真評論家の飯沢耕太郎氏の 3 名による鼎談を行います。写真の持つ”力”を存分に語っていただきます。

【タイトル】
総務省地域ICT利活用広域連携事業
「琉球フォトセッション2011」
～沖縄の今と過去の記憶をつなぐ～

【詳細・日時】
＜豊見城市会場＞
日時：2011年6月18日（土）　15:00～16:30（開場14:30）
場所：豊見城市中央公民館　会議室
　　沖縄県豊見城市字平良467-1
入場：無料（予約受付）

＜那覇市会場＞
日時：2011年6月26日（日）　15:00～17:30（開場14:00）
場所：沖縄県立博物館・美術館　講堂
　　沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
入場：無料（予約受付）

主催：NPO法人ちゅらしまフォトミュージアム
共催：地域情報エージェント株式会社、 ソフトバンクテレコム株式会社、株式会社 JTB コミュニケーションズ、おきなわフォト、オフィスユニゾン、タイフーン fm、なんたるフォート、箆柄暦、外間デザイン事務所、雑誌『momoto』
後援：那覇市（那覇市歴史博物館）、豊見城市、公益財団法人沖縄県文化復興会、沖縄タイムス社、琉球新報社
お問い合わせ：NPO法人ちゅらしまフォトミュージアム（info@churaphoto.jp）

ニュースリリース（6月6日配信）

琉球フォトセッション 2011　プレスリリース

≪参考≫
NPO 法人ちゅらしまフォトミュージアムとは

沖縄本島、宮古、八重山諸島、奄美諸島などの島々は、琉球文化圏と呼ばれ日本のなかでも特異な歴史的背景を持ち、独特の文化を誇り写真記録に収められてきました。しかし、日の目を見ないうちに重要な資料であるはずの写真が散逸したり廃棄されるなどの事故が頻発しています。これは公的な保存施設が存在せず、評価がなされなかった結果であり、今後の歴史文化を継承していくうえで大きな問題です。

「NPO 法人ちゅらしまフォトミュージアム」は、こうした琉球文化圏の美しい風景、珍しい動植物などはもとより、歴史の厚みがにじむ祭事や芸能、人々の暮らし、政治的事変、そして戦争、現代の表現などさまざまな事象を写し出してきた写真を収集、保存、活用し、運営する。また、広く写真文化に寄与することにより、文化の振興、発展、向上を目的とした活動法人です。

代表　垂見健吾

NPO法人ちゅらしまフォトミュージアム
沖縄県那覇市牧志2-11-12
090-8293-5597
098-988-0303
info@churaphoto.jp
www.churaphoto.jp

（3）ワークショップ（フォトレポータの育成）の実施状況　※詳細は次頁、及び、「添付資料参照」
※3月11日～6月12日で新規フォトレポータ育成ワークショップを11回実施

スマートフォン取り扱い説明

システム説明の様子

熱い語りの講師とともに街歩きの様子

振返りをして、街歩きの楽しさを再確認

7. 人材育成状況説明書　申請主体におけるICT人材の育成･活用内容

(1)ICT人材の育成人数

１１回のワークショップを通し、計１５３名の参加者に本事業内容を紹介し、ICT を生活の中に取り入れることの意味と住民が自分たちの地域の写真をアーカイブすることの目的を理解いただいた。

本事業における人材育成の目的は、日々の生活の中のある瞬間を記録し、アーカイブすることで地域住民が共有できるコンテンツとしての写真を蓄積することである。その実践として、街でフォトレポータとしての撮影・投稿することを体験するワークショップを実施した。

参加者の属性は、那覇市、豊見城市、周辺市町在住の一般市民、行政職員、大学生、ＮＰＯ法人スタッフ、地域ブログポータルサイトのブロガー等色々な属性の人が参加いただいた。男女比は、ほぼ半々で、２０～４０代が中心であるが、『「昔」と写真でつながる』をテーマにした会では、５０～６０代の年配層にも参加いただいた。日々何気なく通り過ごしていることが、実は歴史的な意味があったり、路地を入ることで新しい世界を体験できることが新鮮だったようで参加者に好評だった。

(2)ICT人材の育成方法

１１回のワークショップを通し、『「今」を写真で切り取る』、『「昔」と写真でつながる』の２つのテーマで、ちゅらしまフォトミュージアム、地域情報エージェント㈱、街歩きを通して地域の魅力を発見するプログラムを行っているＮＰＯ法人まちなか研究所わくわくのスタッフにより運営を行った。那覇市・豊見城市、及び、周辺市町の一般市民を対象として参加募集を仰ぎ、市役所スタッフや、地域ブロガー等にも参加を呼びかけた。

各回、ワークショップの形で、実際に街を歩きながら、フォトデータアップの体験をしたり、現在の街と昔の光景との対比などを行うことを通して、活動の持続的展開の意義などについての理解を得ることができたものと思われる。（各３時間程度）※ワークショップの詳細は別添３参照

また、事業を継続するために、運営側のインストラクターの養成が求められる。このインストラクター養成のために、まちなか研究所わくわく宮道喜一様とフォトアーカイブに詳しい沖縄在住写真家小早川渉様に、運営スタッフに対する研修も延べ 10 回実施した。この研修は、街の魅力を見つけ出す視点を理解すること、今回利用する iPhone を利用しての撮影方法等の理解を深めるとともに、専門家がいなくても独自にプログラムを行えるインストラクター養成を目指している。

実施日、実施担当、育成対象は次項の表を参照願いたい。

■「今と昔を写真でつなぐワークショップ」開催スケジュール

	日程 （作業時間）	会　場	講師	内　容		参加者属性	参加人数			プロジェクタ
							男性	女性	合計	
第1回WS	3月11日（金） 18時~ 21時半	那覇市安里 漢謝園	まちのたね通信 編集室	事業オリエンテーション 事業協力要請		まちのたね通信 フォトレポータ	22	34	56	
スタッフ研修①	3月17日（木） 17時~ 21時半	タイフーンfm （那覇市首里）	小早川渉氏 宮道喜一氏	プログラム内容検討 フォトアーカイブとその運営		ちゅらフォト LIAスタッフ	4	1	5	○
スタッフ研修②	4月8日（金） 17時~ 21時半	タイフーンfm （那覇市首里）	宮道喜一氏	プログラム内容検討		ちゅらフォト LIAスタッフ	4	2	6	
ロケハン スタッフ研修③	4月18日（月） 15時~ 21時	豊見城市役所→ タイフーンfm	宮道喜一氏	豊見城市役所周辺現 地事前視察研修、進行研修		ちゅらフォト LIAスタッフ	4	1	5	
第2回WS	4月19日（火） 13時～18時	豊見城市役所 2階会議室	宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「今」を写真で 切り取るWS	大学生、市職員、 NGO関係者	6	2	8	○
スタッフ研修④	4月20日（水） 17時~ 21時半	タイフーンfm （那覇市首里）	小早川渉氏 宮道喜一氏	前回振返り iPhone利用の研究		ちゅらフォト LIAスタッフ	3	2	5	○
ロケハン スタッフ研修⑤	4月22日（金） 15時~ 21時半	那覇市牧志→ タイフーンfm	宮道喜一氏	牧志周辺事前視察 街を見る視点研修		ちゅらフォト LIAスタッフ	2	1	3	
第3回WS	4月23日（土） 9時～13時半	那覇市牧志 なは商人塾	宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「今」を写真で 切り取るWS	大学生、 20~ 40代	3	6	9	○
ロケハン スタッフ研修⑥	4月25日（月） 15時~ 21時半	浦添市牧港→ タイフーンfm	宮道喜一氏	牧港周辺事前視察 プログラム作り研修		ちゅらフォト LIAスタッフ	2	2	4	
第4回WS	4月26日（火） 9時～14時	浦添市牧港 てぃーだスクエア	宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「今」を写真で 切り取るWS	NPO関係者、 移住者、主婦	1	4	5	○
ロケハン スタッフ研修⑦	5月11日（水） 15時~ 21時半	那覇市牧志→ タイフーンfm	小早川渉氏 宮道喜一氏	那覇市牧志周辺事前視察 プログラムとiPhone指導研修		ちゅらフォト LIAスタッフ	4	2	6	○
第5回WS	5月14日（土） 9時～14時	那覇市 首里金城村屋	山城岩夫氏 宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「今」を写真で 切り取るWS	金城町住民、 学生、北部住民	7	7	14	○
第6回WS	5月17日（火） 9時～13時半	浦添市牧港 てぃーだスクエア	小早川渉氏 宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「昔」と写真で つながるWS	ブロガ、 那覇住民	5	8	13	○
第7回WS	5月18日（水） 13時～18時	那覇市牧志NPO 活動支援センター	小早川渉氏 宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「昔」と写真で つながるWS	公務員、20~ 60代 アナウンサ	6	4	10	○
ロケハン スタッフ研修⑧	5月19日（木） 15時~ 21時半	首里金城町→ タイフーンfm	小早川渉氏 宮道喜一氏	金城町周辺事前視察 プログラム進行研修		ちゅらフォト LIAスタッフ	3	2	5	
第8回WS	5月22日（日） 9時～13時半	豊見城市 中央公民館	小早川渉氏 宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「昔」と写真で つながるWS	那覇、豊見城、 恩納村在住者	2	4	6	○
ロケハン スタッフ研修⑨	5月23日（月） 15時~ 21時	若狭公民館→ タイフーンfm	宮道喜一氏	若狭公民館周辺事前視察 プログラム進行研修		ちゅらフォト LIAスタッフ	4	2	6	
第9回WS	6月4日（土） 15時~ 19時半	那覇市 首里金城村屋	山城岩夫氏 小早川渉氏 宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「昔」と写真で つながるWS	那覇、恩納村在住 の20~ 50代	6	7	13	○
第10回WS	6月5日（日） 9時～13時半	那覇市 若狭公民館	一柳亮太氏 宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「昔」と写真で つながるWS	30~ 50代	5	6	11	○
第11回WS	6月12日（日） 9時～13時半	那覇市 若狭公民館	一柳亮太氏 小早川渉氏 宮道喜一氏	事業紹介 iPhone使い方	「昔」と写真で つながるWS	若狭住民、宜野湾、 那覇在住者	4	4	8	○
スタッフ研修⑩	6月16日（木） 17時~ 21時半	タイフーンfm （那覇市首里）	小早川渉氏 宮道喜一氏	ワークショップ振返り		ちゅらフォト LIAスタッフ	5	3	8	○
集　計	WS開催数	１１回	講師	小早川渉氏	２０回	WS参加者数	67	86	153	PJ 使用
				宮道喜一氏	１０回	スタッフ研修参加	35	18	53	
	スタッフ研修 開催数	１０回		山城岩夫氏	２回	延べ参加者数 （単位：人）	102	104	206	１４回
				一柳亮太氏	２回					

※内容：　今=「今」を写真で切り取るＷＳ　昔=「昔」と写真でつながる

(3)(1)で育成等したICT人材の活用人数

ワークショップにより育成したフォトレポータには、全員にスマートフォンか携帯電話による日常的な地域情報コンテンツの投稿を依頼。下表は３月以降の那覇市、豊見城市におけるフォトレポータの増加数と投稿数であるが、６月末時点で３月末から１４８名増加、投稿数は 3,339 件の増加となっており、ワークショップ開催後の４月以降の投稿数は飛躍的に増加している。

■関連データ

項目	地域	3 月末	4 月末	5月末	6月末
レポータ（人）	那覇	174	205	225	276
	豊見城	33	40	46	56
	全県	624	663	716	772
投稿数（件）	那覇	6,892	7,610	8,461	9,457
	豊見城	198	256	312	333
	全県	15,287	16,358	17,254	18,626
アクセス数（PV）	那覇	96,810	81,491	102,854	92,768
	豊見城	4,494	5,677	4,965	4,294
	全県	139,475	109,926	131,038	118,671

(4)ICT人材の活用方法

ＩＣＴ技術を活用し、地元にいなければわからない沖縄情報をコンテンツとして投稿していくことの意義を理解しているフォトレポータが継続的に活動する環境整備を整えることができた。フォトレポーットとして地域住民ともＩＣＴ活用、地域情報投稿と蓄積の意義が共有され、地域全体で積極的にＩＣＴを活用する基盤を作りあげることにつながる契機となると思われる。定期的なワークショップやイベントの開催により、地域情報を写真を通して伝えることの意識をより高めるための企画や行政との協働施策もより研究しなければならない。

(5)次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

現在のフォトレポータに対しては、ワークショップや交流会等、継続的な活動が行える企画を定期的に行う。また、新規のレポータ獲得についても、現在のフォトレポータによるロコミとともに、事務局としてもワークショップやイベントなどを継続して実施していく。

8. 人材育成状況説明書　事業運営主体におけるICT人材の育成・活用内容

(1)ICT人材の育成人数

本事業の事業運営は、事業実施主体であるＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアムは、写真家や編集者が中心となって活動している組織ある。また、地域情報システムを沖縄で展開し、フォトレポータによる今の情報を集める仕組みを運用し、今回の事業で開発したシステムのベースである「まちのたね通信」を展開している地域情報エージェント㈱がシステム面をサポートしている。ＩＣＴ等の知識を有するスタッフが担当しているため、技術面における育成は特に行っていない。これは、今回開発したシステムが、システム担当者のためのシステムでなく、システムを理解し人でも、携帯電話で撮影した写真とコメントを投稿するだけで、その地域の貴重な「地域の記憶」を提供したことになる。この「地域の記憶」をシステムを意識しないで利用できる環境整備を目指した成果である。

今後、ＩＣＴはより進化する。この進化したＩＣＴを「何に使うのか？」「誰のためなのか？」ということを考慮し、地域の人による、地域の将来につながるＩＣＴ利活用のモデルケースとなることができればと考えている。

新しいＩＣＴを使うことをいとわない人を育成することが、地域情報システム（地域 SNS）として求められていることと考える。

(2)ICT人材の育成方法

本事業で開発されるシステムは、フォトレポータや古写真の提供など、地域住民の理解と積極的な参加が重要な要素である。本事業ではワークショップの開催によるフォトレポータの育成やイベントによるアーカイブ事業の理解促進に注力した。これらの活動における参加者の反応などを通して、ワークショップやイベントのノウハウを蓄積することができた。今後の事業展開における他地域の移転のためのパッケージ化などの方向性が確認できた。また、地域活性化を目的としたＮＰＯ法人などとの連携を通し、相互にＩＣＴ活用の有効性を実現するためにはそれぞれの得意分野をうまく組み合わせる新しい公共の理念である『協働』の必要性を確認できた。

(3)(1)で育成等したICT人材の活用人数

本事業において、ＩＣＴ人材として運営サイドで稼動した人材の人数は以下の通り。

・ＮＰＯ法人ちゅらしまフォトミュージアム　　１０名
・地域情報エージェント㈱（開発グループ）　　３０名
・ＮＰＯ法人首里まちづくり研究会（e レンタルポタリング首里）　１０名
・ＮＰＯ法人まちなか研究所わくわく　　５名

(4)ICT人材の活用方法

本事業で新しい関係を気づくことのできたＩＣＴ人材は、今後のシステム及びアプリケーションのアップデート、システムの他地域移転等で開発の主体となっていただく。また、本事業ではシステムだけでなく、地域に写真を通した新しい地域情報システムを活用するコミュニティーの育成が必須である。このコミュニティー育成の指導を導入地域に対して関係者とともにサポートしていくことを検討している。

(5)次年度以降のICT人材の育成・活用内容(予定)

今回開発されたシステムの活性化、他地域への移転等の活動の中で、積極的に活用していきたい。ワークショップやイベントなどの運営については、協力機関（企業、ＮＰＯ法人）も含め実際の取組みを通して人材の数・幅を広げていきたいと考える。

(6)新しいビジネスモデルの立ち上げ

本事業で、フォトアーカイブとアプリケーションの開発を進める中で、新しいビジネスモデルの創出が期待できる可能性が出て来た。

これは、沖縄の公共交通機関であるゆいレールと首里地区で電動アシスト付き時電車をレンタルしているポタリング首里と本事業の主体であるちゅらしまフォトミュージアムとまちのたね通信が地域散策支援を協働で進める検討を進める機会を得ることができた。

首里は、沖縄最大の観光史跡と言われる首里城がある。しかし、ゆいレール首里駅は、首里城正門から約１km、徒歩で１５分強離れており、ゆいレールを利用した観光客の誘客に苦労をしていた。また、この６月から首里で、電動アシスト付きレンタル自転車を展開しているポタリング首里が首里駅脇に貸出し店舗を開設した。首里城は、山の上にあり坂が多く、多くの訪問者は,」レンタカーか観光バスで首里城だけ見て別の地区に流れることが多い観光スポットであったが、電動アシスト自転車で路地裏巡りをすることが容易になった。

今回開発した地域住民の投稿と地域の古写真をベースにした地域散策支援アプリ「まちのたねフォトナビ」を利用すると首里だけでもかなりのポイントで地域情報のチェックができるようになる。

ポタリング首里の利用者にアプリケーションの利用を促すことにより、首里の裏通りや車では回れないような場所にも回遊し、本土とは異なる沖縄の歴史や文化を体感できるようになる。

幸いなことに、琉球王朝を舞台にした「テンペスト」が NHK で放映されるとともに、映画化もされる。

歴史ドラマファンの方々に、レンタカーでなく、ゆいレールで首里駅に来て、電動アシストレンタサイクルで、「まちのたねフォトナビ」を使うことで、テンペストの世界観をじっくり体験することができるようになる。

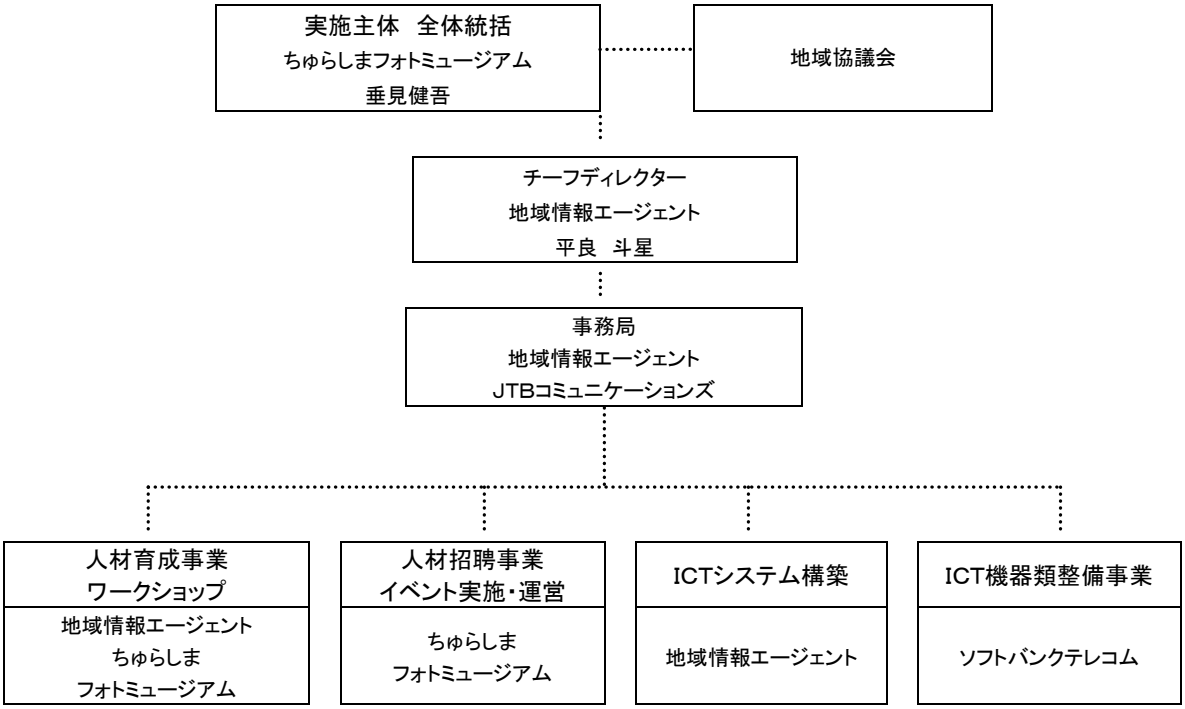
観光客、歴史ファン、地域住民の学習支援として、新しい沖縄の楽しみ方のビジネスモデルとして、自分の足や自転車でじっくり地域に滞留することを楽しむ旅を提案する機会創出につながることは、緑の分権の一つのモデルになる。一過性のブームに終わらせないように、利用した人の満足度を高めるような検討を進めたい。

９. 実施体制説明書

地域協議会は以下のメンバーで構成した。

実施体制	
地域協議会	
名称	取組状況
沖縄県地域アーカイブ協議会	沖縄県に存する「地域の記憶」である様々なコンテンツの収集・保存を行うため、市民・行政・メディアを横断した協力体制を構築
主な運営体制（地域協議会の構成員）	
団体・氏名	役　割
沖縄県地域アーカイブ協議会	同上
ちゅらしまフォトミュージアム 垂見　健吾	事業実施主体 事業全体の統括・管理
ちゅらしまフォトミュージアム 平良　斗星	チーフディレクターとして運営全体の管理 人材育成事業／人材招聘事業／イベントの実施等
那覇市 下地　雅之 （那覇市経済観光部観光課）	地域行政からの事業へのアドバイス／地域関係機関等調整
豊見城市 門間　真規 （豊見城市企画部商工観光課）	地域行政からの事業へのアドバイス／地域関係機関等調整
地域情報エージェント㈱ 木下　勝彦	事務局／ＩＣＴシステム構築
沖縄県観光商工部 税所（さいしょ）清隆	県行政からのアドバイス／他県関連事業との調整等
ソフトバンク テレコム㈱ 廣場　啓祐	ＩＣＴ機器類／通信環境整備
NPOまちなか研究所わくわく 小阪　亘	人材育成（ワークショップ開催等）
NPO首里まちづくり研究会 山城　岩男	ポタリング首里（レンタサイクル）　交通アプリ等での協力
㈱JTBコミュニケーションズ 吉口　克利	事務局サポート／観光・コミュニケーション面でのアドバイス
NPOアートリンク 翁長　さおり	教育面でのシステム活用等アドバイス

事業の運営は以下の体制で実施した。

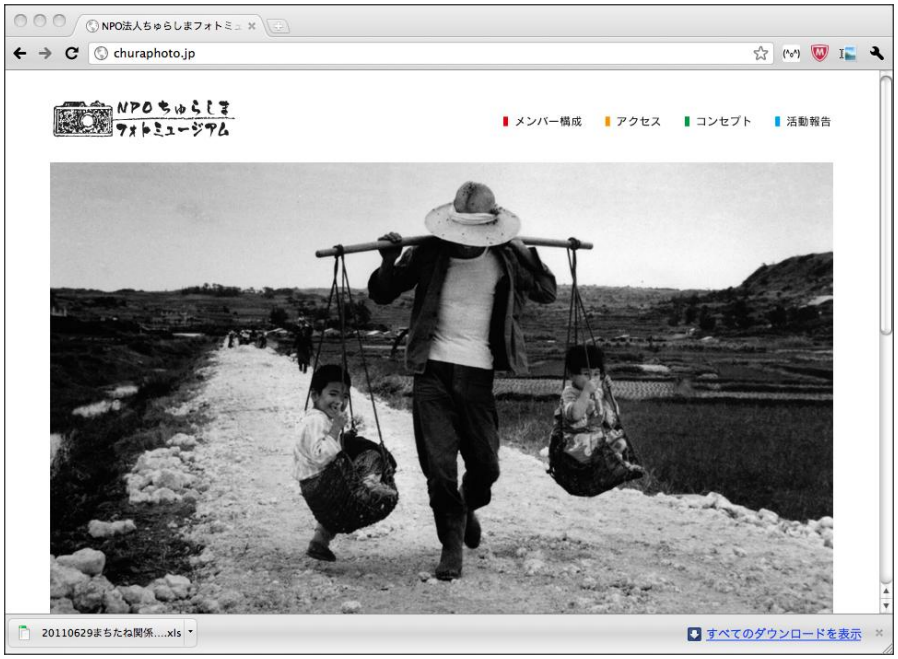


10. 事業実施進行表

実施内容	H23 2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
協議会等設立 準備会合	⇢	▶				
協議会等開催		● 第１回 3/11			● 第２回 6/27	
ワークショップ の開催（人材育成）			●● 11, 19, 23	●●●● 14, 17 18, 22	●●● 4, 5, 12	
古写真の デジタイズ作業			⇢	⇢	⇢▶	
システム構成の 検討・決定		⇢▶				
システム構築に係る 競争入札			⇢▶			
システム・アプリ 開発			⇢	⇢	⇢▶	
システム稼働					⇢	⇢▶
サービス実証実験					⇢	⇢▶
イベント実施					●● 豊見城 6/18 那覇 6/26	
報告書作成					⇢▶	

11. 関係先サイト

■ちゅらしまフォトミュージアム http://churaphoto.jp/



■まちのたね通信　　http://machitane.net/

那覇まちのたね通信
http://naha.machotane.net/

豊見城まちのたね通信
http://tomigusuku.machitane.net/

以上